

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第31号 7月10日
発行 住友化学・住化武田農薬
お客様相談室 0570-058-669
編集者 古津 昇
発行責任者 原 正樹

目次

農家さん訪問記	p.1
住友化学の《スーパーSRコート》について(その2)	p.5
りんごの病害虫チョットいい話(5)	p.6
住化アグログループ紹介 住化タケダ園芸(株)	p.7
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.8
知って得する防除の仕方	p.9
農薬登録情報	p.10
病害虫発生情報	p.10
今月のご相談から	p.11
最近の「お・・美味しい!」	p.12
コラム・そば談義	p.13
編集後記	p.13



「ミヤマホオジロ(ホオジロ科)とレンゲツツジ(ツツジ科)」技術顧問 富樫作

農家さん訪問記

美味しい羽後町(秋田)のスイカ!

梅雨空の雨がうっすらと残るなか、秋田県は県南部に位置する「羽後町」までやってきました。今回は、美しい鳥海山の眺望と緑豊かな風景が広がるこの町で、水稻・スイカ・花きなど多岐にわたる経営をされている遠藤政男さん(69歳)にいろいろお話をうかがいました。

水稻転作地に様々な農作物を栽培!



秋田県の名産といえば、何を思い浮かべますか?

お米で有名な、「あきたこまち」でしょうか? 今回訪ねた遠藤さんも、「あきたこまち」を育てています。でもそれだけではないのです。秋田県では、実はスイカの栽培も盛んなのです。遠藤さんがお住まいの秋田県羽後町でも栽培が盛んで、寒暖の差が大きい内陸丘陵地域のため、その特有の甘さがのったスイカはことに評判が高いそうです。遠藤さんはそんな羽後町で地域のスイカ部会長を長年務めていました。部会長を退いた今でもスイカ作りに励んでいます。

では、まず遠藤さんの栽培作物について簡単に紹介しましょう。メインは水稻栽培ですが、その転作で育てているのが「大豆、スイカ(大玉・小玉)、ハウスメロン、花き(トルコギキョウ・ストックなど)」ざっとこんなところでしょうか。実にいろいろな作物を年間通して栽培していますが、実際の農作業は主に遠藤さんご夫婦が担当し、それに息子さん、お嫁さん、そして近くの女性の方が手伝いをしているといった具合だそうです。

三輪地域のスイカは60年の歴史！

さて、秋田県でも羽後町のスイカ栽培は、おおよそ60年くらいの歴史があります。なかでもこの三輪地区での栽培の歴史は古く、大玉スイカは60年、小玉スイカでも20年の歴史があるということで、随分と昔からスイカを育ててきた土地柄であることがうかがえます。栽培当初の大玉スイカは露地栽培で、スイカ小屋を立てて、どろぼうの見張りをしていたという話ですから当時がしのばれますね。遠藤さんのお宅でもずっとスイカ栽培をしていますが、



露地スイカ

水稲増産時代から米が余り、転作が奨励された昭和46年ごろから、スイカやメロンに力を入れるようになったそうです。とはいえ一時期、遠藤さん宅では1.6ヘクタールあったスイカ畑が、今では80アールと随分減ってきています。それは遠藤さんに限ったことではなく、地域全体で減少傾向にあり、収益が上がるトマトや花きの栽培に転換する人が多いとのこと。スイカ栽培が減ってきている理由としては、スイカは重量が重く扱いが大変なこと、また、核家族化も進み、大玉スイカでは冷蔵庫に入らないということで消費者に敬遠されたことが挙げられます。実際に、集落の農家20戸のうち15人いたスイカ部会員が、現在では3名まで減少してしまったとのこと、なんと寂しい限りです。

農作業スケジュールは全て頭にインプット！



大玉スイカ

しかし、いくら減少したとはいえ、スイカの栽培をやめてしまったわけではありません。そこで、栽培のお話を聞きました。遠藤さんのスイカ畑は水稻の転作で、前述のように80アール(大玉が60アール、小玉が20アール)栽培しています。そのうち大玉品種「ロマン」は、大手スーパー「イオングループ」との契約栽培です。大玉は着花から約45日で収穫され、収穫時は12~13kgにもなります。対して、小玉は2~3kgで32日後くらいに収穫されます。ハウスと露地の両方で栽培されていて、ハウスの中には、今にも収穫できそうなスイカがゴロゴロ実っていました。このスイカハウスで発生する主な病害虫はアブラムシや青枯病・灰かび病・菌核病などとのこと。しかしハウス栽培では甚大な被害はなく、収穫までに殺虫剤・殺菌剤を1回くらい散布するだけで大丈夫とのことでした。また施肥量も少なく、スイカはなんと同じハウスで3作も収穫しますが、そのたびに

肥料を入れるぐらいです。栽培での苦勞としては、スイカ以外にもいろいろな作物の面倒を見ないといけないことと、スイカに限らず、作業のタイミングを逃さずやるのが大変とのことでした。そうおっしゃる遠藤さんですが、多岐にわたる栽培の作業スケジュールはすべて頭に入っています。また作業のタイミングは感覚的に体が覚えているということですからさすがです。ベテラン農家さんの「すごさ」がうかがえるお話ですね。

秋田県農業賞受賞を機に収支管理！

さて、遠藤さんの農業経営に話を移しましょう。まず、メインの水稲は3.5ヘクタールほど栽培しています。遠藤さんの水田では10アールで10俵近く収穫できますが、以前は1俵20,000円近くしていたのが、最近では12,000円ほどです。これを粗収入として、経費は田植機やトラクター他の減価償却費や農薬・肥料代などで300万円くらいかかるとのこと。次にスイカですが、80アールの栽培で10アールあたり平均50万円くらい(良い時は80万円の時もある)の収入で、経費はざっとその2割です。メロンは約7アールの栽培面積で100万円くらいの収入ですが、経費は小玉スイカの2倍くらいかかってしまいます。最後に花きですが、坪あたりで計算すると、他の作物に比べて一番収入が良いそうです。30アール栽培して10アールあたり100万円くらいとのこと。さらに経費面でも、ハウスで栽培しているとはいえ、半加温で暖房費用もあまりかからないとのこと。



ハウスメロン

ここで一つエピソードを……。遠藤さんが平成8年に栄えある秋田県農業賞を受賞した時の話です。受賞した結果、税務署から目をつけられ、税金を追徴されたそうで、今でも笑い話ではないですが心に残っているとのこと。その時の経験から、今ではコンピューターも買ってきちんと収支管理をしており、「そのことで経営者としての意識も高まったことだし、今思えば、かえって良かったかもしれない」と遠藤さん。ベテラン農家さんともなると、本当にいろいろなことがあるものですね。

今後は花きの栽培にも力を入れたい！

そんなベテラン農家の遠藤さんに、今後の展望をうかがってみました。

まず、産地としてスイカ(特に小玉)にこだわりたい一方、花きにも力を入れたいとのこと。実際、花は「品評会でも受賞しているし、札幌・仙台・八戸まで出荷して需要も増えているので手ごたえを感じている」とのお話でした。また、この地域では自分のところも含めて水稲、スイカ、花きなど色々な作物が混在しています。そのようなことで水田の



元気なスイカのつる

横に畑があると、水はけの関係で野菜の栽培にはあまり良くないうえに、作業効率も悪いため「水稲栽培地域とスイカや野菜などの畑作地域をエリアで分けて、それぞれの作業をお互いが委託し合うなどして、地域の農業を省力・効率化できれば……と考えている」とのこ

とでした。また、「農業機械を各農家が持っていますが、使う時期が限られているので、これも請負委託などで機械の効率化ができるように呼びかけていければ」と、地域の農業発展も視野に入れているご様子。さらに秋田の農産物については、「作り方は上手で美味しいものが作れるのだが、売り方がヘタなのが残念」とも。あきたこまちは、全国的に知名度が高いのに、他の作物はいまひとつ。これら農産物の知名度を上げて、もっと秋田の農産物を知ってもらいたいとのこと。実際、筆者は秋田のスイカと聞いて、どうもピンと来なかったくらいですが（ごめんなさい）、実際賞味させていただいて、びっくりしました。抜群に甘くて「美味しかった」のです。このスイカ、地元で消費されるのが主とのこと、全国展開していないのが正直、惜しい気がしました。まだまだ日本にはなかなか口には入らない美味しい農産物があるのかも・・・とってしまったくらいです。

栽培のコツを後継者の息子さんにバトンタッチ！

最後に、後継者のことも含めた希望などを聞いてみました。ここ羽後町三輪地域では、1,100戸のうち農家戸数は700戸で、そのうち専業農家は50戸くらいとのこと。「専業・兼業農家とも他と比べるとまだ後継者はいる方じゃないかな」と遠藤さん。今は農業をしていない人も、いずれは親から引継ぐだろうと、規模を拡大している農家さんも多いのだそうです（いわゆる品目横断的経営安定対策で認定農業者を目指している人も少なくありません）。

そして遠藤さんのところはどうかという
と、「自分もいい年齢なので、早く息子にあと
をついでもらいたいね」と、どうやら息子さんのなるべく早い就農を強く望んでいる様子でした。実は息子さんは農業高校を出て、今はJA職員として勤務しています。JA職員になる前は、一緒に農作業をしていましたが、高校卒業後に種苗会社で2年間経験を積んだことを実行したい息子さんと、長年の経験を持つ遠藤さんとの間で意見がくい違い、よく衝突が起こりました。それを見かねた奥さんが、息子さんに農協への就職を勧めたとのこと。こういう親子の衝突というのは、遠藤さんのところに限らずどこでも起こることなのかもしれません。とはいえ前述のように、現在は息子さんもお父さんの手伝いをして、耕起、代掻き、田植、刈り取りなど、水稻の作業の大半を行っています。また、ネギ栽培も始めたとのこと、JA勤めのかたわら農作業にも励んでいます。「息子に長年やってきた栽培のコツやカンを受け継いでもらい、あとは好きなようにやってもらえれば一番良い。そして、自分もその手伝いができたら幸せです」と、そう話す遠藤さんですが、まだまだ現役！というエネルギーが溢れているようで、まさにお元氣そのもの。引退なんておっしゃらずに、これからも抜群に美味しいスイカを作り続けてください。そんなことを思いながら、雨のあがった羽後町を後にしました。



奥さんが作る家庭菜園

（佐伯、古津）

[目次へ戻る](#)

住友化学の〈スーパーSRコート〉について (その2)

前回に続き、今回は被覆肥料スーパーSRコートの特徴についてご紹介させていただきます。

3. 住友化学の被覆肥料の特長

(その1)

シグモイド型溶出です。当社の被覆肥料は、シグモイド型の溶出であり、肥料の必要な時期に必要な量を供給させることが可能です(図2)。

(その2)

被覆肥料の種類が豊富です。被覆資材や被膜の厚さ等を変えることで、肥料成分の溶出期間を20日~180日(25℃水中条件)までコントロールすることを可能とし、20日刻みで9種類の溶出タイプを揃えています。

(その3)

地域、品種毎にきめ細かな対応が可能です。現場の要望に対しきめ細かい対応をするため、地域、品種に

合うよう、肥料を配合し提供しています。水稻を例に挙げると、生育に必要な肥料は、基肥、分けつ肥、穂肥、穂ぞろい期追肥の4つです。この4つの肥効部分(速効性の化成肥料と3種類の溶出期間が異なる被覆肥料)を地域、品種に合わせて最適な配合割合でブレンドし、提供しています(図3)。

(その4)

肥効日数がひと目でわかります。3種類の被覆肥料は肥効の長短により3色に着色されており、色の濃いものほど肥効が長くなっています。

(その5)

強度、耐久性に優れます。当社の被覆肥料は強度、耐久性に優れたポリウレタン樹脂を用いており、動散等の機械散布にも使用できます。

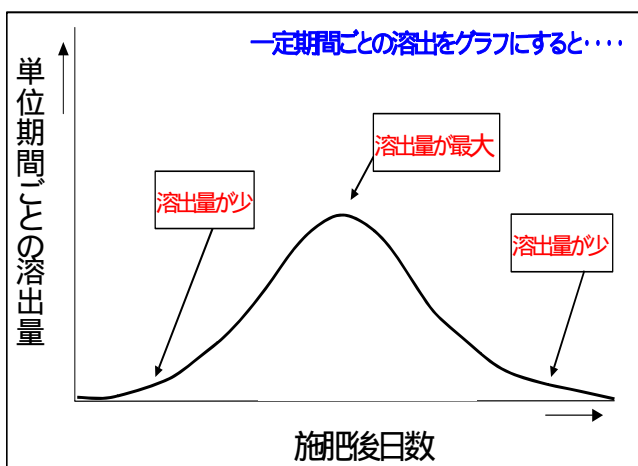


図2. シグモイド型被覆肥料の溶出曲線(微分図)

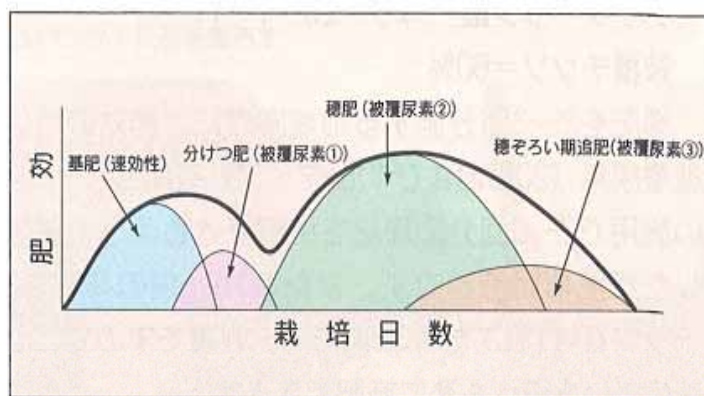


図3. 被覆尿素入り肥料の肥効発現 (イメージ図)

肥料用語解説 (その2)

特殊肥料とは・・・農林水産大臣の指定する米ぬか、堆肥その他の肥料を指します。

普通肥料とは・・・特殊肥料以外の全ての肥料をいい、種類や区分に応じ規格が定められています(公定規格)。被覆肥料の原料である尿素、化成肥料もこの普通肥料に該当します。

(住友化学アグロ事業部肥料資材部)

[目次へ戻る](#)

りんごの病害虫チョットいい話 (5)**りんごの重要病害として君臨する斑点落葉病！**

前回「リンゴ黒星病」が古くて新しい病害（日本での発生が昭和29年）であることを記しました。

これと前後して日本でりんごに発生し、現在でも重要病害として君臨しているものに「斑点落葉病」があります。終戦後朝鮮特需を経て国民の所得が向上し、食生活が改善されりんごなど果物の消費が伸び、価格も上昇して各県の栽培面積が急増してきた昭和31年、報告によると岩手県南部に位置する前沢町の 印度 に原因不明の落葉を伴う斑点性病害が突如として発生しました。

当時の栽培品種は 国光 紅玉 が主力品種で、 印度 旭 祝 そして比較的新しく導入された スターキングデリシャス ゴールデン・デリシャス などが少し栽培されて



いる状況でした。当初これらの品種の内 印度 と スターキングデリシャス に特異的に本病が発生しましたがその後程度の差はあるものの殆どの品種に発生することが分かると共に、岩手県では2年後全県に、そして数年後には青森県を初め全国の主要りんご栽培県に発生するなど凄まじい勢いで拡大しました。この状況を思うとき、改めて動物のみならず植物病害の強さと恐ろしさを思い知らされます。

その後、菌は澤村ら（1963）によって *Alternaria mali* Roberts と同定され、病名は「斑点落葉病」と命名されました。*Alternaria* 属菌は完全時代を持たない不完全菌類であり、菌を分離し接種してみると毒性はまちまちで変化に富んでおり、まさに進化途上の真菌類である印象を受けます。 印度 やデリシャス系品種が栽培されなくなっても、新品種にしっかり病原性を示すところなど、したたかさを持っている病害の一つと言えるでしょう。筆者が本病に携わった昭和40年頃、主な越冬場所が枝病斑と考えられていましたが、現在の主要品種に枝病斑を見つけることはほとんど無く、現在では落葉及び冬芽の鱗片内部が主体と思われております。

防除面では当初ボルドー液やチウラム・ジラム剤などの予防剤が用いられておりましたが、その後治療効果を有するポリオキシシン剤が登場し、一安心と思う間もなく耐性菌が山形県下で大沼（現住友化学技術顧問）らによって確認され、瞬く間に全国でも出現する事態となりました。現在ではイプロジオン剤やキャプタン剤の感受性低下が報告されており、本病の防除に当たってはとりわけ治療効果を有する剤の連用を避けた体系を心掛けて欲しいものです。

次回はこれも古くて新しい「褐斑病」について触れたいと思います。

（技術顧問 水野）

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介 **住化タケダ園芸(株)**

ベニカD[®]スプレー



420ml

900ml

[特長]

家庭園芸初心者の方にも使いやすく害虫の発生にすばやく対応できるスプレータイプの殺虫剤です。

クロチアニジン（ダントツ）とエトフェンプロックス（トレボン）の2つの成分によるトリプル効果（速効性、浸透移行性、持続性）で害虫を効果的に退治します。

対象害虫が幅広くカイガラムシ、ハモグリバエなどの難防除害虫にも有効です。

効果のある害虫

アブラムシ類、マメハモグリバエ、オンシツコナジラミ、**ケムシ類**
 カイガラムシ（カイガラムシ類、ロウムシ類、ミカンコナカイガラムシ）
 アザミウマ類、チュウレンジハバチ

対象作物

[草花・観葉]: 花き類、観葉植物、きく、ガーベラ、クロトン
 [花木・庭木]: ばら、つばき類（さざんかを含む）、**樹木類**
 [洋らん]: カトレア

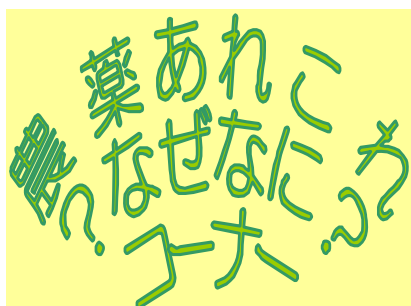
[新製品]

ベニカD[®]スプレー

直噴散布で遠くまで（約4m）散布液が飛びます。
 高所や近づきたくない庭木のケムシ退治などにお勧めです。



[目次へ戻る](#)



アンコール企画
最近多いこの質問!!

スミチオン乳剤の 希釈方法(保存版)

ご質問

家庭菜園を始めた者です。「なす」にアブラムシが出て困っています。園芸店でスミチオン乳剤の 100 ミリリットル入りのものを買ってきました。園芸店で聞きましたが、これは水で薄めて使うものなんですね。希釈倍数は「1000~2000」となっていますが、たくさんアブラムシが出ているので 1000 倍で散布しようと思います。希釈の手順を教えてください。

お答え

散布液の量を決め、必要な量のスミチオン乳剤を計算しましょう。

- ・散布液の量の目安とは? : 植物にしっかりたっぶりかかるくらいの量です。
- ・スミチオン乳剤の適量とは? : 1000倍希釈をする場合
= 水1リットル当たり、スミチオン乳剤1ミリリットルが適切な薬量となります。
同様に、例えば散布液を5リットル作るのであれば、5リットルの水にスミチオン乳剤を5ミリリットル加えればよいことになります。
(1リットル=1000ミリリットルです。1000ミリリットルの水に、1ミリリットルの薬剤を入れれば1000倍の希釈液になります。)

必要量のスミチオンを正確に量るための道具を準備しましょう。

家庭菜園の場合、1度に作る散布液の量は、農家さんと比べてそれほど多くないので、量り取る薬剤量が少量になります。このような時にお奨めしたいのが、園芸用の計量スポイトです。目盛り付きのものを購入してください。園芸店で入手でき、価格は種類にもよりますが、100円~200円程度です。

(なお、スミチオン乳剤のフタに薬剤をすりきり一杯入れると、約8ミリリットルになります。ただ、フタの内側は複雑な構造になっていますので、8ミリリットル以外の量を量るのには適しません。)

準備が済んだら、実際に散布液を作りましょう。

- (1) バケツなどの容器に、散布液として使う量の水を入れます。
- (2) 必要量の薬剤を量り取り、散布用の水に加えます。スポイトで量った場合、内部に残った薬剤は、散布用の水を吸い込んで出すことを何回か繰り返して、よく洗ってください。これで、量り取った薬剤の全部を散布液に入れることができます。
- (3) 最後に、かくはん棒などで散布液を良く混ぜ、均一にしたら出来上がりです。

注意 水洗した後のスポイトで再度薬剤を量る場合は、その前に、中の水をよく切ってください。
作った散布液は作りおきできませんので、使い切りましょう。

(佐伯、南)

[目次へ戻る](#)

知って得する防除の仕方

ハスモンヨトウの性フェロモン剤「フェロディンSL」

地球温暖化の影響かどうかは解りませんが、ハスモンヨトウの発生は東北地方へ拡大しています。

ハスモンヨトウは、暖冬の場合は幼虫や蛹で越冬するので発生量が増加します。早い時期の4月上旬から少発生が見られ、更に降雨が少ないと7月中旬から増加し、9月～10月に多発します。

ハスモンヨトウの加害作物は、いも類・豆類・なす科野菜・アブラナ科野菜・レタス・れんこん・にんじん・ねぎ類・いちご・たばこ・まめ科牧草などで、これらに多発生し、食い尽くすと老齢幼虫が歩いて隣接の作物に集団移動をします。移植したばかりの作物はひとたまりもありません。薬剤での防除もいろいろな剤がありますが、ここでは発生密度を広域に低下させる防除について紹介します。

「フェロディンSL」はハスモンヨトウのメス成虫が出す性フェロモンを基に製剤化したもので、オス成虫を広範囲に大量に誘殺することが出来ます。

オスの密度が低下すると交尾の機会が少なくなり

次世代幼虫の密度が低下します。

農薬散布の回数を減らせます。

予察にも役立ちますので適期防除が出来ます。

「フェロディンSL」の適用場所(作物)に「など」の記載がありますが、ハスモンヨトウの加害作物(場所)では全て使用できます。使用方法は簡単です。ファネル型トラップ(捕殺容器)に「フェロディンSL」を1個取付け、圃場の周辺部に約50～100m間隔で高さ約1m～1.5mの高さに固定します。1ヘクタール当たり2～4個を設置します。成虫の密度の低い発生初期(4～5月)から設置を開始するのが上手な使い方です。発生密度が高まってからの設置では、オスはフェロディンに誘引される前に近くのメスに誘引され、交尾する機会が増えて効果が低下するからです。そして、発生終期まで連続的に使用する必要があります。

本剤は1.5～2ヶ月で誘引効果が低下しますので、新しい物に交換してください。「フェロディンSL」は天敵などに影響はほとんど無く、薬剤の抵抗性が発現することもない防除方法です。広範囲に設置し、地域の発生密度を低下させ、他農薬とのローテーション防除をして、より効果的な防除をしましょう。(富樫)



[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

< 7月4日の適用拡大の内容です >

適用拡大

プレオフロアブルとトレファノサイド乳剤の適用拡大です

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名/ 使用目的	使用量ほか	
殺虫剤	プレオ フロアブル	害虫追加	レタス	ナモグリバエ	1000倍	収穫7日前まで 2回以内 散布
		害虫名 変更	ピーマン とうがらし	オオタバコガ タバコナメクジ類	100~300L/10a	収穫前日まで 2回以内 散布
除草剤	トレファノサイド 乳剤	使用時期 追加	かんしょ	畑地一年生雑草 (ツツジ、ササゲ、サ サ、アブミ科を 除く)	薬量： 200~300ml/10a 希釈水量： 100ℓ/10a	挿苗前(マルチ前) 1回 土壌表面散布
		使用時期 追加と 本剤使用 回数変更	だいず えだまめ			定植前(植穴掘前) 2回以内 土壌表面散布
		使用時期 変更と 本剤使用 回数変更				生育期 但し、 収穫45日前まで 2回以内 畦間土壌表面散布
						は種直後 は種後発芽前 2回以内 土壌表面散布

(佐伯・南)

[目次へ戻る](#)**病害虫発生情報**

6月中旬~7月初めに各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

注意報(6月14日)岐阜県・イネ/縞葉枯病(ヒメトビウンカ): ヒメトビウンカ/スミチオン乳剤、スミバツサ乳剤75など。

注意報(6月15日)岩手県・りんご/腐らん病: ベンレート水和剤など。

注意報(6月15日)北海道・アブラナ科野菜/コナガ: エスマルクDF、プレオフロアブル、フローバックDFなど。

注意報(6月26日)茨城県・なし/黒星病: アンビルフロアブル、ダコニール1000など。

注意報(6月29日)徳島県・早期水稻/斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ, アカスジカス)



りんご腐らん病

ミカメ等)：ダントツ粒剤、パダントレボン粉剤DLなど。

特殊報(6月29日)大分県・ニラ、ネギ/ニラえそ条斑病(仮称)(ネギの病害は名称未定) ネギアザミウマにより媒介されるウイルス病です。：ニラ/ダントツ水溶剤など、ネギ/ダントツ水溶剤、プレオフロアブルなど。

特殊報(6月29日)鹿児島県・トルコギキョウ/トルコギキョウ黄化えそ病 アザミウマ類により媒介されるウイルス病です。：アディオンフロアブルなどをご使用ください。

注意報(7月4日)岩手県/イネ/いもち病(葉いもち)：ブラシンゾル、ブラシンバリダゾル、ブラシンバリダフロアブル、ブラシンバリダ粉剤DLなどご使用ください。

注意報(7月5日)静岡県/茶/クワシロカイガラムシ：スミロディー乳剤など。

注意報(7月6日)長崎県/水稻/コブノメイガ：パダンSG水溶剤、パダン粉剤DL、パダン粒剤4、パダントレボン水和剤、パダントレボン粉剤DLなど。(鈴木)

* 農薬は弊社剤をご紹介します。

[目次へ戻る](#)



クモヘリカメムシ

今月のご相談から

水稻のカメムシ防除はダントツ粒剤で！

Q 毎年カメムシにより、斑点米が発生して等級落ちをして困っています。

今年こそ重点的に本田防除・畦畔管理を実施して良い結果を上げたいと思っておりますので、上手な防除方法を教えてください。

A 水田に飛来し、斑点米を発生させるカメムシ類には「アカヒゲホソミドリカスミカメ」「アカスジカスミカメ」「トゲシラホシカメムシ」「クモヘリカメムシ」「ミナミアオカメムシ」「ホソヘリカメムシ」その他数種がいます。

越冬場所は林や畦畔、休耕田などの雑草地で、暖かくなるとそこから出て来て周辺のイネ科雑草で交尾・産卵をします。稲が出穂期になると水田に移動し、稲の穂を吸汁します。乳熟期以前の加害では不稔粒になり、それ以降の加害では斑点米になります。品質への影響は斑点米のほうが大きいと言えます。カメムシ類の防除方法には、水田の環境整備と薬剤による防除があります。環境整備では出穂前の水田周辺の畦畔、休耕田等カメムシの餌となる雑草管理があります。草刈は出穂の2週間前までに終了することが重要です。出穂間際草刈りをすると、行き場を失ったカメムシの成虫を水田に追込みかえって被害が増加しますので、注意が必要です。薬剤による防除では「ダントツ粒剤」を出穂期～乳熟期に湛水(通常3cm前後)にして田面に均一に散布します。散布後4～5日間は湛水状態にして、7日間は落水やかけ流しはしない注意が必要です。



オオトゲシラホシカメムシ

粉剤では「ダントツH粉剤DL」や「ダントツ粉剤DL」を穂揃期前後に本田や休耕田に散布します。畦畔の防除を行うと、歩行して入ってくる「トゲシラホシカメムシ」に有効です。「ダントツH粉剤DL」は高含量成分で、「ウンカ類」「ツマグロヨコバイ」「イナゴ類」以外に「イネツトムシ」「ニカメイチュウ」「フタオビコヤガ」にも効果を発揮します。「スミバッサ粉剤DL」は有機リン系のスミチオンとカーバメート系のバッサの混合剤でウンカ類・ツマグロヨコバイとカメムシ類の同時防除が出来ます。広範囲の防除には「ダントツフロアブル」があり、有人及び無人ヘリコプターでの防除が出来ます。いもち病との混合剤では「ブラシダントツ粉剤DL」と「ブラシダントツH粉剤DL」がお奨めです。

(富樫)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい!!」

ポン酢はエライ!

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい!!」
女性目・主婦目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪♪

梅雨特有のジトジトした日が続いていますね。

気温も高く、体もだる～くなる季節。こんな時期は、台所にも立ちたくなくなるものです。とはいえ、立たないわけにもいかないので、なるべく「カンタン」な献立で済ませたいと思うのが主婦の本音(笑)。そんな時、我が家で大活躍するのが万能調味料「ポン酢」です。ポン酢はなにも鍋の季節に限ったものではないのです!うちでは主に炒め物の味付けによく登場します。



見た目は豪華でも簡単!

この料理は言うなれば「夏野菜の和風ラタトゥイユ」。

タイトルはカッコいいのですが、実は夏野菜とベーコンをオリーブオイルで炒めて、最後にポン酢で味付けしただけの簡単料理なのです。ポン酢の爽やかな酸味と、たっぷりの夏野菜が美味しいまさに「夏向き」の料理です。なにしろ簡単で、温かくても冷やしても美味しいので、我が家ではすでに夏の定番メニューとなりつつあります。

そういえば、私の仲間うちでも「ポン酢」好きが多く、いつも料理の話になると「ポン酢を考えた人はえらいよね」「うん!えらいえらい!」と結局はポン酢を褒め称える話になってしまいます(笑)。これからどんどん暑くなりますね。皆さんも(自分も含めて)しっかり食べて健康管理をしましょう

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義

仙台に単身赴任中、*単身寮で暫く独身生活のような気楽な生活を送っていた。

当時は休日ともなると寮の食堂で、私が打った不揃いのそばを囲んで、気の合った仲間とよく語りあった。そして、そこにいた大半のひとが今は東京に戻っている。その人たちに3年半ぶりに声を掛けて、いつも利用する日本橋袂のそば屋に集まった。

私より少し年配ということもあり、すでに皆さんは定年を迎えている方が多い。現在は、勤めた会社で嘱託をしている人や、定年後少し休憩して事業を興す準備をしている人、そして毎日が日曜日という人など様々である。さて、その席で笑ってもいられない話が出た。長い単身赴任生活からやっと開放され、我が家に帰ってみると自分の居場所がないという。ここに集まった経験者はこの話題で盛り上がった。単身赴任者は家庭の事情でやむなく住み慣れた自宅を離れる人が大半だが、その年月が長くなるほど残された家族はご主人抜きに生活に安定してしまう。特に、年頃の娘さんがいるお宅は、風呂に入るにも順番があり、洗濯も一緒に洗うのはもってのほかとのこと。暫くは、本当に居心地が悪かったと言葉に実感がこもっていた。罪滅ぼしというのもおかしいが、単身時代の歳月を埋めるためにせっせと海外旅行に奥さんを誘っているそうである。

また、ある人は今までの会社での経験を生かして経営コンサルタント業を興そうと考えているようだ。長い間お付き合いのあったお客様に、これからは少しでも恩返しのためで、親身になってアドバイスをしたいとのこと。その報酬は、夫婦二人が食べていけるくらいあればよいと言っていた。また、印象に残ったことは、定年後得意な分野で仕事が出来、お客さんに心から喜んで貰えるようなアドバイスが出来れば最高と言われたことに心のどこかでうらやましく感じた。

会社ではある地位を築いた人が多いことも関係あるのか、終始和やかでどこまでが冗談なのかかわからない会話に笑いが絶えない。また、お互いの近況報告などをし、まだ単身寮に さんがいると云って、その場で電話してなつかしい声を聞き、次回はそのひとの帰京日に合わせて半年後に集まろうと男の約束?をした。このように色々な人と、楽しく語り合えるのも、「そば」が取り持つ縁だと思わずにはいられない。

そして、i - 農力会員さんに私の稚拙な文章を毎回読んで頂けることも、そばを趣味にしているお蔭と思う。その感謝の気持ちではないが、お客様相談室にお問合せ戴いた方には出来るだけ丁寧にお答えしたいと思っているのだが・・・ (古津)

*会社契約の単身寮

編集後記

国内うなぎが徐々に息を吹き返してきているようだ。

食の安全安心への意識が高まり、輸入品より国内産のうなぎが人気が出てきたとのこと。うなぎと云えば浜名湖と相場が決まっていたが、今は当時の1/10の生産量に低下したとのこと。原因は湖の塩分濃度が高くなり養殖に適さないようだ。最近では、鹿児島が1位で2位は愛知県とのこと。新幹線で浜名湖を通る度に、以前と比べて養殖場が少なくなったような気がしていたが合点がいった。しかし、浜名湖産の三段重ねのうなぎがやはり一番と思うのだが。



[目次へ戻る](#)